
文化財建造物活用テクニカルノート

文化庁では、「NPO等による文化財建造物の活用推進」事業を実施しています。この事業の一環として、平成18年度から「NPOによる文化財建造物活用モデル事業」をNPO等の団体に委嘱して行っています。各事業の概要については、文化庁ホームページをご覧ください。

各モデル事業の実施を通して、文化財建造物の活用に関する工夫や、課題の解決方法が見出されてきています。

「文化財建造物活用テクニカルノート」は、そうした工夫や手法を、文化財建造物の管理と活用に取り組む皆さんに共有していただくことを目的としたものです。

文化財建造物の管理・活用の参考として役立てていただくとともに、このコーナーにふさわしい内容については、情報を提供していただき、「テクニカルノート」として充実していきたいと考えています。

文化庁 文化財部 参事官（建造物担当）

1. 丙申堂の活用をまちづくりに効果的に結びつける協働の枠組みづくり事業

【実施団体】 NPO法人 公益のふるさと創り鶴岡(山形県鶴岡市)

平成18年度

【対象文化財】(重文)風間家住宅主屋ほか4棟、
(登録)風間家旧別邸無量光苑釈迦堂ほか5件

1/2

■文化財に関わる人をつなげる

- この事業では、NPOが橋渡し役となり、建物の管理者である中間法人、文化財を活用したいイベントの主催者、来場者の三者をつないで、公開を進めていこうというものです。
- NPOが管理者とは別の立場で公開を考え、協働して公開にあたることで思わぬ効果があげられる場合があります。文化財に関わる人をつなげましょう。

■イベントは文化財建造物を地域の人に知ってもらう機会になる

- これまで、来訪者のほとんどが市外・県外からの観光客でした。
この事業では、鶴岡の歴史文化に題材をとった語りや雛祭りをテーマにしたことや、通常の公開時間よりも遅い時間帯にゆっくりと文化財を鑑賞できたことも好評で、多くの市民が文化財建造物を訪れる機会になりました。
- イベントを通して文化財建造物を地域の人に知ってもらい、保存と活用の意義を理解してもらいましょう。

■近所に知ってもらうのは、地域にサポーターをつくる第一歩

- 約50年前に近所で火事があった時は、当時商家であった風間家住宅には従業員もたくさんいて、バケツリレーで板葺き石置きの屋根に水をかけ、建物の類焼を免れました。しかし、現在は少人数で管理しており、災害時の対応に不安があります。万一の時には近隣住民の支援を求めることとなります。
- 文化財建造物の魅力を知ってもらうことは、地域にサポーターをつくる第一歩と考えましょう。

■文化財×文化財の効果を考える

- この事業でテーマとした、鶴岡の歴史ある民話と現代的な解釈も加えた語りや雛祭りは、それ自体が文化財です。文化財建造物を舞台とすることで、演出効果が得られ、双方の魅力が引き出されて、来場者にも好評でした。
- 文化財と文化財を掛け合わせる「相乗効果」を考えましょう。

■地域出身の文学者の作品から題材を得る

- 鶴岡で執筆活動を続けた藤沢周平は、藩政期の鶴岡を「海坂藩」として数々の作品を生みました。市内には藤沢作品の面影を訪ねるファンのために、作品に登場した場所を巡る案内板なども用意されています。
- この事業では藤沢作品の朗読会を行いました。地域にゆかりの文学作品からイベントの題材を得ることは、文化財と地域の関係を深めることに繋がります。

1. 丙申堂の活用をまちづくりに効果的に結びつける協働の枠組みづくり事業

【実施団体】 NPO法人 公益のふるさと創り鶴岡(山形県鶴岡市)

平成18年度

【対象文化財】(重文)風間家住宅主屋ほか4棟、
(登録)風間家旧別邸無量光苑釈迦堂ほか5件

2/2

■ガイドによる見守りも必要

- 文化財の公開には、見学のマナーをわきまえない人による心ないふるまいや、き損や盗難の心配もあります。文化財の魅力を伝えるガイドが、見学者を見守ることも効果的です。
- 旧風間家住宅では、ボランティアガイド、シルバー人材センター登録者、管理者の三者で常にガイドができる体制としています。

2・市田邸に安全に住まい、楽しく地域に開くための仕組づくり事業

【実施団体】NPO法人 たいとう歴史都市研究会(東京都台東区)

平成18年度

【対象文化財】(登録)市田家住宅主屋

1/2

■住みながらの公開を考える

- この事業では、NPOが建物の所有者、下宿人、来場者の橋渡しをしながら、登録有形文化財に住みながら公開するためのしくみを考えました。居住と公開は対立すると思われがちですが、時間と空間をわけて両立させることを試みました。
- 例えば、普段は居住に供される部屋も、時々公開することを前提とすると、より良好に維持されるようになります。
- 活動の中で行ったアンケートでは、住みながらの公開を支持する声が多く寄せられました。住みながらの公開を考えてみましょう。

■建物公開と会場貸出しを組み合わせ活用の主旨を伝える

- この事業では、NPOが主催するイベントと、会場としての貸し出しを組み合わせ、さらに建物の公開を主目的とするイベントを実施して、公開のしくみを検討しました。特に建物を見てもらう「おひろめ日」の活動が、建物の保存の趣旨を見学者に伝えるうえで、大きな役割を果たしました。また、町会活動への貸室は、地域に活動の理解を得るきっかけとなりました。
- 会場としての貸出しを主な活動とする文化財建造物でも、建物そのものを見てもらい、活用の主旨と建物本来の暮らし方を伝える機会を設けることは重要です。

■公私の境界を定める

- 居住しながら公開するために、公開部分と非公開部分を定めることがあります。
- この事業では、公開時に見学者の動きをモニタリングして、また来場者アンケートの結果を参考にしながら、無理のない区分を探りました。
- 公開部分と非公開部分を分けるため、鍵をかけるべき所にはきちんと施錠しました。公私の境界は、単に「立入禁止」と表示するのではなく、屏風や建具を活用したり、布間屋だった市田邸にゆかりの明治期の布見本を使って襖の引手を塞ぎ、手が掛けられないようにしてみました。柔らかな制限の試みは、効果がありました。

■関守石の復権を目指す

- 庭園で、立ち入りを制限したい場所には、石に縄を結わえた「関守石」を置くのが伝統の手法です。苑路の踏み石の上に置けば「この先の立ち入りはご遠慮下さい」の意味になります。
- この事業でも関守石を置いてみましたが、その意味が理解されないことがありました。結果として、竹を用いた簡易な柵を設置することになりました。関守石は、日本ならではの柔らかな制限の表現で、その復権をはかりたいものです。

2・市田邸に安全に住まい、楽しく地域に開くための仕組づくり事業

【実施団体】NPO法人 たいとう歴史都市研究会(東京都台東区)

平成18年度

【対象文化財】(登録)市田家住宅主屋

2/2

■パンフレットだけでは伝わらない+話だけでも伝わらない

- 文化財建造物には、案内用のパンフレットが用意されていることがあります。その多くは、建物の歴史や特徴、見学の注意事項などを中心に構成されています。
- 実際には、その場では読まれず、「記念品」や「お土産」として持ち帰られることが多いことが、この事業のアンケートで確認されました。
- 活動の趣旨や注意事項など、本当に伝えたいことは、管理者がその場で話すことが必要なようです。見学者とのコミュニケーションの第一歩と考えましょう。
- 文字で確実に伝えることと、人と人との会話で伝えることの両立が効果的です。

■アンケートなどで来場者の気持ちを汲む

- 来場者の意向を把握する主要な手法にアンケートがあります。
- 実際には、アンケートを書いてもらうのは簡単なことではありませんが、設問を工夫することにより、活動の趣旨を理解してもらいながら、来場者の意向を引き出すことが可能です。アンケートを管理者と来訪者のコミュニケーション・ツールとして活かしましょう。アンケートに代わる方法として来訪者ノートを置いて、自由な記載の中から意向を読み取ることも考えられます。
- 来場者の気持ちを汲み、それに応える努力をより良い活動への原動力としましょう。

3・重文民家活用のSAMPLING TIME～ステージ仮設のSAMPLING～

【実施団体】sample(富山県高岡市)
【対象文化財】(重文)佐伯家住宅

平成18年度

1/2

■自由な発想でプログラムを考える

- 文化財民家での公演という、まず伝統芸能などをイメージするかもしれません。
- この事業では、若い人にも足を運んでもらうこと、主催者も楽しんで活動できることを目標に、演目にはジャズやVJ(ビジュアルジョッキー)による映像表現を組み合わせるなど現代的な音楽の先端をとりあげました。客席は毎回満員となり、若い世代にも文化財建造物の魅力を伝えることができました。
- 既成概念から放たれ、自由な発想でプログラムを考えてみよう。

■間取りを変えて使ってみよう

- 日本の伝統的家屋は襖や障子など可動式の建具で仕切られています。建具の扱いを工夫すると多様な空間として演出することができます。
- この事業では、ステージの位置をさまざまに試みました。座敷の続き間にステージと客席を一体的に設ける。土間のステージを座敷の客席から見下ろす。こうした取組みを通して、文化財建造物の持つ空間の魅力を引き出してみましょ。演目によっては、おもいがけない効果が生まれるかもしれません。

■養生仮設を備えよう・仮設で考えよう

- 文化財の活用では、文化財を傷めないよう配慮することが求められます。文化財を傷つけかねないような取り扱い、文化財保護法では「保存に影響を及ぼす行為」として文化庁長官の許可事項とされています。
- この事業では、畳敷きの部屋をステージとしましたが、畳の上に合板やゴザを敷いて畳を保護(養生)しました。これらは、イベント後には撤去して元通りの文化財に戻すことができます。文化財の価値を損なわないための養生を仮設で考えることは重要です。
- イベントを繰り返し、効果的かつ効率的な仮設の手法を見出すことも大切です。

■地域の専門家グループと連携しよう

- NPOのアイデアを実現させるために必要な技術的援助を大学や高専など地域の専門家グループに求めるのは有効な方法です。
- この事業では、イベントの経験から、取り扱いの容易な仮設ステージやテーブルなどが必要と考え、工業高等専門学校と協働して制作しました。

3・重文民家活用のSAMPLING TIME～ステージ仮設のSAMPLING～

【実施団体】sample(富山県高岡市)

平成18年度

【対象文化財】(重文)佐伯家住宅

2/2

■地域に知ってもらうのは、サポーターをつくる第一歩

- NPOがイベントを実施する場合には、支援スタッフが必要となることがあります。また、一つのNPOが、全ての活用事業に関わることは現実には困難です。文化財建造物の活用を支援するサポーターが地域に育つことが期待されます。
- イベントの開催は、地域の人に文化財建造物のサポーターとなってもらう機会になります。支援スタッフとしてイベントに関わったサポーターが、新たな活用の実施主体になることも期待されます。地域の人に足を運んでもらい、サポーターになってもらいましょう。

■所有者に喜ばれる活動を目指す

- 文化財建造物の管理は所有者の責務ですが、時には重荷に感じられることもあります。文化財建造物が活用され、来訪者に喜ばれる様子を見るのは、所有者にとっても嬉しいことです。
- この事業では、イベントの中で、所有者の言葉で文化財について語ってもらいました。イベントの参加者も文化財建造物についての理解を深めました。
- 文化財の活用では、所有者の負担を軽減することも目標の一つとしてください。

4・地域と大学の連携により育てる“河崎まちづくり学生学芸員”構想

【実施団体】 NPO法人 伊勢河崎まちづくり衆(三重県伊勢市)

平成18年度

【対象文化財】(登録)伊勢河崎商人館

1/2

■地域の大学生の力を活かす

- 文化財建造物の価値をわかりやすく伝える方法として、展示が考えられます。質の高い展示を実現するには、学芸員の活躍が求められます。しかし、専従の学芸員を確保するのは困難なのが実態です。
- この事業では、地域の大学と連携し、学生を学芸員として育てる仕組みづくりを目標としました。歴史的な町並みは、研究の対象となりうる史料や題材を豊富に遺しています。学生にとっては、地域の人や物から学ぶ、生きた博物館実習が可能となります。その成果である展示企画には、若い感性が期待されます。

■専門家が適切に指導する

- 学生の力を活かそうとするときには、適切な指導も重要です。
- この事業では、学芸員資格をもつNPOメンバーが、学生の展示企画の指導にあたりました。展示企画の担当部分について、責任をもって確実に成果をまとめるトレーニングが、学生を育てました。
- しっかりとした指導体制をもって、学生に存分に活躍してもらえるようにしましょう。

■文化財建造物をインターンシップの場とする

- 学生が社会において実務を経験することは「インターンシップ」として、大学でも推奨されています。
- この事業では学芸員という立場でしたが、文化財建造物における実務には、学生のインターンシップにふさわしい内容がほかにもありそうです。大学によってはインターンシップを単位として認定している場合もあります。
- 地域の大学との連携を強めることによって、インターンシップの可能性を探ってみましょう。

■参加者の目的意識は一様でない

- 事業を進めるうちに、参加した学生学芸員の意識の差が明らかになってきました。自らあらたな課題を求め、意欲的に作業を進める者がいる一方で、目標を見失い、なかなか作業分担を消化できない者も出てきます。
- どのような企画にあっても参加者の目的意識や能力は一様ではありません。参加者の適性を見定め、意欲を維持しながら全体として円滑に進行させるには、運営者の力量が必要です。

4・地域と大学の連携により育てる“河崎まちづくり学生学芸員”構想

【実施団体】 NPO法人 伊勢河崎まちづくり衆(三重県伊勢市)

平成18年度

【対象文化財】 (登録)伊勢河崎商人館

2/2

■まちづくりを担う人材を育てる

- この事業では、学生学芸員は、伊勢河崎の祭りや市(いち)の手伝い、まちづくりシンポジウムのコーディネーターなども体験してもらいました。こうした活動を通して、まちづくりを担う人材として育てようと考えたからです。将来、伊勢河崎のまちづくりに関わる者が出ることも期待されます。

■世代間で共有できる価値を見出す

- 文化財建造物から受ける感銘も、世代による違いがあります。文化財建造物も若い世代は、違う部分に価値を認めているかもしれません。さまざまな感性をもつ者が、文化財建造物について語り合うことは、文化財の新たな価値を見出したり、価値のありかを明確にしたりする恰好の機会です。学生とともに活動する意義は、ここにもあります。
- 世代間の交流を通して、文化財建造物の価値の理解を深めましょう。

■学生の活力を受け取る

- 学生に活動に参加してもらった場合、卒業は避けられない転機の一つです。毎年、顔ぶれが変わるという点もあります。学生を受け入れる側としては、活動に新たな活力をもたらす存在と考えたいものです。
- 文化財建造物という現場で得た体験は生涯忘れられない体験となるでしょう。就職などでほかの土地へ行っても、その地で文化財建造物保存の担い手となってくれるよう、豊かな経験を提供しましょう。

5・古民家ネットワーク推進事業「古民家が21世紀に今、語りかけるもの」

【実施団体】NPO法人 泉州佐野にぎわい本舗(大阪府泉佐野市)

平成18年度

【対象建造物】(重文)中家住宅(大阪府熊取町)、(登録)新井家住宅(大阪府泉佐野市)、
(重文)旧名手本陣妹背家住宅(和歌山県紀の川市)ほか10件

1/2

■広域のネットワークをつくる

- この事業では、大阪府中南部と和歌山県北部にまたがる広域の古民家のネットワークを構築することを目指しました。府県境を超えた活動は行政が関わりにくく、NPOが能力を発揮するステージの一つといえます。
- NPOは、文化財の所有者どうし、活動を支えるボランティアどうしを結びました。また、ボランティアが集まりにくい地区に、他の地区から必要な人員を派遣することも行いました。
- 広域に連携し、相互に支援する仕組みづくりの一例と言えるでしょう。

■多くの文化財をつなぐ工夫

- 多くの文化財建造物を、多くの人々が訪れて欲しい。この事業では、文化財の民家13軒を巡る2ヶ月間のスタンプラリーを行いました。
- スタンプラリーの期間中には、日程を調整して、それぞれの文化財を会場に、ミニコンサート、落語会、子供向けの紙芝居などの催しを企画しました。民家の公開とイベントを組み合わせることにより、多くの参加者を得ることができました。

■所有者をつなぐ

- この事業では、文化財の所有者と所有者、所有者と見学者の交流を目的としたバスツアーを実施しました。文化財建造物を見学したのち、所有者との意見交換会の席を設けました。
- 所有者どうしがじっくり語り合う時間が持てたことは、事業全体の運営を円滑にしました。

■小さなイベントを連ねる

- この事業では、講演会、コンサート、落語会、紙芝居と小さな企画を、次々と会場を移して実施しました。ひとつひとつの企画は、無理のない規模にまとめました。結果として、どのイベントも会場は満席となりました。2ヶ月間の短期集中型としたことも効果があり、あるイベントに参加した人が、次の会場のイベントにも参加する、良い連鎖をうむことができました。
- 多様なプログラムを連続して実施する効果を目指しましょう。

■会場づくりは最小限でもよい

- 文化財建造物を公演等の会場にする場合、特別な舞台装置は必要がないと考えることもできます。座敷とその続き間で和楽器の演奏を聴くとき、床の間、違い棚、書院などの座敷飾りは、良質な奏者の背景を提供します。少人数を聴衆とするときには、音響設備も不要でしょう。飾付けが建物の見どころを隠してしまったり、不適切な取付け方法で建物を傷めてしまうこともあります。建物の空間とともに公演を楽しむ。こうした感性が建物の魅力を見出すきっかけにもなります。

5・古民家ネットワーク推進事業「古民家が21世紀に今、語りかけるもの」

【実施団体】NPO法人 泉州佐野にぎわい本舗(大阪府泉佐野市)

平成18年度

【対象建造物】(重文)中家住宅(大阪府熊取町)、(登録)新井家住宅(大阪府泉佐野市)、
(重文)旧名手本陣妹背家住宅(和歌山県那賀町)ほか10件

2/2

■ボランティアの意識と能力を高める

- 広い地域で、連続したイベントを運営するためには、ボランティアスタッフの確保が必要になります。
- この事業では、事前にボランティアの講習会を開催し、文化財建造物に関する基礎的な知識と、ボランティア活動への意欲を高めました。講習会の会場はもちろん登録有形文化財建造物です。

■文化財所有者にも参加してもらう

- 文化財所有者も、活用に対してさまざまな考えをもっています。この事業は、所有者どうしが意見を交換し、実際に他の文化財民家でのイベントにも参加する機会となりました。
- 「これなら我が家でも可能だ」と感じられた所有者も多く、次年度の企画に新たに参加を表明する所有者も現れてきました。

■参加者を次のスタッフにする

- スタンプラリーは2年目の取り組みでしたが、昨年の参加者からボランティアスタッフとなる人が出てきました。
- イベントの内容を充実させ、持続的に実施していくためには運営スタッフを着実に増していくことも必要です。参加者の満足感を高めることが、ボランティアの輪を広げることに繋がります。

■事業広報の媒体を工夫する

- イベントが広域にわたるようになると、ポスターだけでは事業の周知が難しくなります。「楽しかったですよ。今度はご一緒しましょう！」というような、参加者の口込みも有効で、近年はインターネットにもこうした情報が大量に流れています。一方で、地方自治体の広報誌や地域誌での告知も、信頼性の高い情報源と受け取られています。
- さらなる情報発信を目指して広報媒体を発掘しましょう。

6・短期空家転貸“チャレンジショップ”による空家対策促進事業

【実施団体】NPO法人 ネットワーク竹原(広島県竹原市)

平成18年度

【対象文化財】竹原市竹原伝統的建造物群保存地区 旧笠井家住宅ほか

1/2

■長期的な目標を達成するための短期的な手法を探る

- 空き家は伝建地区でも悩みの種です。町が活気を失い、防災・防犯面からも良いことではありません。空き家に居住者を呼びこみ、共に伝建地区のまちづくりをしていくこと。これがこのNPOの長期的な目標です。ただし、空き家に新たに居住者を迎えることは簡単ではありません。
- この事業では、長期目標の達成のために、NPOが所有者から建物を借り受け、希望者に建物を使ってもらう短期転貸(=チャレンジショップ)の手法を試みました。

■住民との信頼関係を築く

- NPOが地区の住民の信頼を得るには地道な努力が必要です。このNPOは伝建地区内の空き家の一軒を借用し、団体の活動の拠点としてきました。お互いに顔が見える状況をつくることが第一歩です。拠点は常に開放し、折々のイベントに地区住民を招くことで、良好な関係を積み上げてきました。
- この事業では、さらに歩を進めて、NPOと地区住民が協力してイベントを運営しました。空き家の転貸は、深い信頼なしには成り立ちません。

■所有者と使用者の橋渡しをしよう

- 空き家となっている建物は、所有者の事情で使われていないものがほとんどです。空き家の解消には、建物を使ってくれる人が必要です。最初の段階としては、借家人として建物を使用してもらうことが無理のないアプローチと考えました。
- 建物をきちんと使ってもらえるか。伝建地区のルールを守れるか。近隣の住民と馴染んでもらえるか。こうした所有者の不安を解消するのが、NPOの役割になります。

■使用者にも不安はある

- 伝建地区の建物に魅力を感じ、移り住んでみたいと思う人にとっても、多くの不安があります。文化財である建物は扱えるか。生活は成り立つのか。地域に受け入れてもらえるか。憧憬を行動に移すには多くの障壁があります。
- 短期であっても、実際に建物を使い、伝建地区での暮らしを体験してみることは、使用者にも大きなメリットといえます。
- NPOとしては、使用上の注意事項を十分に説明した上で、使用者の疑問には丁寧に答えていく必要があります。

■空き家を掃除する

- 使われずにいるうちに空き家には塵が積もり、各所に傷みも生じています。所有者の生活用具も一部は遺されたままです。まずしなければならないのは、空き家の清掃、整頓です。
- この事業では、NPOが中心となってボランティアスタッフとともに作業を行いました。あわせて損傷箇所を確認し、短期の利用ができる程度の小修理を行いました。閉ざされていた戸が開かれ、人が出入りするだけで、建物は息を吹きかえます。

6・短期空家転貸“チャレンジショップ”による空家対策促進事業

【実施団体】NPO法人 ネットワーク竹原(広島県竹原市)

平成18年度

【対象文化財】竹原市竹原伝統的建造物群保存地区 旧笠井家住宅ほか

2/2

■幅広い年齢層が関わる仕掛け

- この事業では、ボランティアスタッフは公募としました。結果として幅広い年齢層が事業に参加することになりました。また、ボランティアの公募は事業の内容と趣旨を広報する機会にもなりました。
- あわせて、入居を希望する人にもボランティアとして、清掃に加わってもらいました。自らの手で建物を整えていく経験は、入居決定の大きな動機となりました。

■チャレンジショップを盛り上げる

- 空き家を店舗や展示場に利用する試みは、「チャレンジショップ」として実施しました。週末のみの出店も含めて、12団体が実施しました。チャレンジショップの実施期間中は、NPOが展示等のイベントを企画して集客に協力しました。こうした取組みをとおして、出店者は手応えを感じ、賃貸契約が成立しています。

■使用料は適切に支払う

- 文化財建造物を使用するときにも、適切な使用料を所有者に支払うべきです。
- この事業では、NPOが所有者との間で賃貸契約を結びました。契約書を取り交わすことによって双方の責任の範囲が明確になり、安心して建物を使用することができます。
- 文化財建造物の保存には、多大な経費が必要です。活用から得られる資金が、文化財建造物の保存に役立つ仕組みづくりが重要です。
- 建造物の活用は、文化財として保存していく大きな原動力となりえます。一方で、建造物を使用することによって生じる傷みも無視するわけにはいきません。活用が所有者の経済的な負担を増大させては本末転倒です。

7・アーティスト・イン・笠島～記憶の集積を創造の海へ～

【実施団体】瀬戸内アートウェーブ(香川県丸亀市)

平成18年度

【対象文化財】丸亀市塩飽本島笠島伝統的建造物群保存地区 旧真木家住宅

1/2

■アート視点で文化財建造物を見直す

- 芸術活動は、「芸術文化」として文化財とひとくくりに扱うことが多いのですが、これまで文化財保存の側からは、やや縁の薄い領域でした。
- 実際には、文化財建造物が芸術作品のモチーフとなる、芸術作品を通して文化財建造物の知名度があがる、といった相互補完的な関係もあります。
- 芸術活動に取り組む人々の視点は、文化財建造物にどう注がれるのでしょうか。
- アートの視点から文化財建造物を見直し、新たな魅力を探ってみましょう。

■創作活動を地域の活性化に繋げる

- 芸術活動は、作家が作品を生み出す個人的な行為と思われがちですが、一方で、独創的で新たな価値を生み出す活動と考えると、市民との関わりを強めていけば、地域の再生や活性化の原動力となりえます。
- この事業では、アーティスト・イン・レジデンスとして、一定期間、芸術家が伝統的建造物群保存地区で暮らし、創作活動に取り組みました。住民とのふれあいの中から生まれた作品は、伝統的建造物をギャラリーとして発表され、展覧会の期間中には島外からの観覧者も多く訪れました。
- 芸術活動を文化財建造物の活用として取り組んでみましょう。

■文化財建造物の空間を活かして展示する

- 作品は、伝統的建造物である民家に展示しました。公開のために公有化された住宅で、建物全体を展示に利用することができました。
- 古い住宅には、土間、板の間、畳敷きの部屋、床の間など、様々な空間があります。作品にふさわしい場所を選び、展示の演出効果を追求しました。もちろん、文化財としての建物を傷つけない工夫は重要です。
- 文化財建造物での展示企画では、あれもこれも見せたくなくて、大量の作品が持ち込まれ、文化財の空間の魅力を減じてしまうことがあります。建造物の空間を活かした展示には「間」が大切です。

■子供たちと一緒に創りあげる

- この事業では、芸術家が小中学校を訪問し、児童や生徒とともに創作活動を行う、アーティスト・イン・スクールも行いました。
- 子供たちは芸術家が示したテーマで、創作に取り組みました。
- 作品の発表会は伝建地区内の伝統的建造物で開催しました。古い民家が子供たちと住民、芸術家の対話の場となりました。
- 文化財建造物に子供たちがふれる機会を、さまざまに創出しましょう。

7・アーティスト・イン・笠島～記憶の集積を創造の海へ～

【実施団体】瀬戸内アートウェーブ(香川県丸亀市)

平成18年度

【対象文化財】丸亀市塩飽本島笠島伝統的建造物群保存地区 旧真木家住宅

2/2

■企画書を工夫する

- 事業の意図を関係者に的確に伝えるためには、わかりやすい企画書が必要です。
- この事業では、住民への説明や企業への協力要請のために、事業内容を示した紙芝居を作り、説明しました。それでも島のお年寄りには「カタカナ言葉が多くてわからない」と不評だったため、日本語に置き換え、さらに、思いを伝える言葉を探しました。
- 活動を伝えるための企画書を工夫してみよう。

■展示会は交流のきっかけ

- 文化財建造物でイベントを行うことは、広域から来場者を誘致する機会となります。
- 地域の人々も同時に招くことができれば、交流が芽生えることが期待できます。
- 文化財を場として、文化財を話題として、来場者の間で対話が生まれることは、交流の大きなきっかけとなります。交流の輪の広がりからは、文化財建造物の保存と活用を進める効果が期待されます。

8・三池炭鉱ほりだしものがたり～トラスト創設に向けての協力連携のプラットフォームづくりin万田坑～

平成18年度

【実施団体】NPO法人 大牟田・荒尾 炭鉱のまちファンクラブ(福岡県大牟田市)

【対象文化財】(重文)三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱旧万田坑施設(熊本県荒尾市)

1/2

■事業のターゲットをしぼろう

- この事業の目的は、福岡・熊本両県にまたがる広域に点在する炭鉱関連の近代化遺産の保存を市民で支えていくしくみを作ろうというものです。具体的には、保存のための財源となる基金(＝トラスト)を立ち上げることを目標としています。
- 市民の力を結集するためには効果的な仕掛けが必要です。この事業では、第一歩として、事業のターゲットを炭鉱施設訪問者・子供・企業とし、そこから市民に広げていこうと考えました。事業を誰に向けて訴えるのか、ターゲットをしぼろう。

■地元の団体の動員力に期待する

- イベントとしてコンサートを企画する場合、どのような演奏者を招くかは考えどころです。
- 有名な音楽家を起用すれば、高い芸術性や集客が期待できますが、スケジュール調整が難しくかったり、報酬も高価なものとなります。この事業では、地元のアマチュア音楽家を中心にプログラムを構成しました。
- アマチュア音楽家は発表の場を求めています。楽器運搬などの必要経費だけで出演を引き受けてくれることもあるでしょう。また、出演者には多くの関係者がいます。親の演奏を子供たちが聞きに来る、孫の演技を祖父母が見に来る、こうした動員力もアマチュア団体の魅力です。イベントを一過性のものに終わらないために、地元根ざした活動を創りあげましょう。

■子供に注目しよう

- 子供たちにリピーターになってもらうと、家族をはじめとして、文化財建造物を訪れる人を増やすことができます。
- 子供たちにわかりやすい企画を目指すためには、文化財建造物の価値や魅力を改めて検証しなおす作業も必要です。
- この事業では、文化財建造物を学校教材として活かすため、小中学校の先生を対象とした「教育ワークショップ」を開催しました。
 - 【参考】万田坑では、以前、子供たちが機械類の埃をはらう「お掃除大会」を行いました。綺麗になった機械の各所には、製造所などを示す刻印が見つかります。子供たちは刻印の「摺り拓本」をつくってお土産にしました。

■近代化遺産の学習のテキストをつくろう

- 万田坑は、我が国の近代産業を象徴する炭鉱の遺産です。この事業では近代化遺産を学校教材として活用するためのワークショップを行いました。
- 近代化遺産は地域の繁栄の歴史をしめす存在であり、産業を通じて世界とつながる郷土学習の恰好の題材です。
- また、大きな機械が働く仕組みを、実物を見て理解することは、理科教材としても有効です。さらに、巨大な櫓の高さを影の長さから推測するなど、工夫次第ではさまざまな教科で活用することができます。
- 文化財建造物を子供たちの「学びの場」として活用してみましよう。

8・三池炭鉱ほりだしものがたり～トラスト創設に向けての協力連携のプラットフォームづくりin万田坑～

平成18年度

【実施団体】NPO法人 大牟田・荒尾 炭鉱のまちファンクラブ(福岡県大牟田市)

【対象文化財】(重文)三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱旧万田坑施設(熊本県荒尾市)

2/2

■活動を通じて課題とその解決策を探る

- 多くの近代化遺産では、野外での大規模な活動が可能な反面、会場までの交通手段の確保や安全対策なども必要となってきます。さまざまな課題が現れてきますが、イベントを積み重ねることによって、解決策が見出されることもあります。
- 企画の立案には周到な検討も必要ですが、経験の蓄積や支援者の広がりなど、実行に移すことで得られる事柄もあります。まずは、活動として踏み出してみましよう。

9・古民家を「伝える技」と「楽しむ手仕事」伝承事業

【実施団体】臼杵デザイン会議(大分県臼杵市)

平成18年度

【対象文化財】(登録)小手川酒造蔵・小手川酒造主屋・小手川家住宅・

野上彌生子成城の家・山海荘・山海荘離れ・高橋家住宅・齋藤家住宅

1/2

■自分たちのできることを探してみよう

- 文化財建造物を良好に維持管理していくには、手入れや修繕が欠かせません。大規模な修理は専門家に任せることになりませんが、所有者でもできることはあります。かつては、そうして建物を維持してきたはずで、文化財になったからといってできなくなるわけでもありません。
- この事業では、所有者が自ら行える範囲の小修理や作業について、専門家に手ほどきしてもらった講座を実施しました。

■所有者の集まりを支援する

- 文化財建造物の維持管理は、所有者にとっても負担が大きく、悩みの種となることがあります。一人一人では悩みとして抱えこんでしまうことも、同じ悩みをもつ人が集まれば、解決できることがあります。
- この事業では、文化財所有者が集まることによって顕在化された悩みである「小修繕」と「庭園整備」について、大工や庭師と所有者との間を団体が仲立ちすることによって、解消への道筋をつくりました。

■事業の最初に目的を共有しよう

- この事業では、スタートにあたって開講式を企画しました。開講式では、臼杵のまちの良さを地元出身の小説家、野上彌生子の文学作品から学んだ後、活動の対象となる市内の登録有形文化財の見学をすることで、参加者がこれから行う事業の目的を共有しました。
- 実際に現場を見ることによって、参加者の意欲も高まります。事業の最初に目的を共有するしなやかさを考えてみましょう。

■地域出身の作家の足跡から題材を探してみよう

- 小説家・野上彌生子はふるさとである臼杵の町を、愛着をこめて作品に登場させています。野上彌生子ゆかりの建造物は文化財として登録されて、今回の事業の活動の場の一つにもなっています。小説の描写をもとに庭園の復元も試みました。
- 地域出身の作家の足跡などから活用の題材を探してみましょう。

■小さな活動を組み合わせてみよう

- この事業では、大工講座、庭園講座、紙雛講座を行いました。一つ一つは小さな活動ですが、それぞれに適切な協力者が得られ、活動の目的を達成することができました。多彩な活動を組み合わせたことから交流も生まれ、全体として事業が活性化しました。「技」と「手仕事」をキーワードにしたことにより活動にまとまりができました。
- 大きな目標に向かって、小さな活動を組み合わせてみましょう。

9・古民家を「伝える技」と「楽しむ手仕事」伝承事業

【実施団体】臼杵デザイン会議(大分県臼杵市)

平成18年度

【対象文化財】(登録)小手川酒造蔵・小手川酒造主屋・小手川家住宅・

野上弥生子成城の家・山海荘・山海荘離れ・高橋家住宅・齋藤家住宅

2/2

■子供向けの題材を加えよう

- 紙雛講座は、子供たちからお年寄りまで、多くの方が伝統的建造物に集まるきっかけになりました。現在では住宅内に和室が少なくなり、日本家屋に接することの減った子供たちにとって、座敷での作業は貴重な体験です。伝統的な建造物の空間を体感し、文化財に接するマナーを学んでもらいました。
- 活動の中に、子供が参加できる内容を加える工夫をしましょう。

■みんなで成果を確認しよう

- 大工講座の実習で修繕した建物の軒先や、庭園講座で選定した庭木を見ることによって、講座参加者は、自ら行ったことに対する手応えを感じることができました。また、紙雛は市内の各所に飾られ、マスコミにも取り上げられました。
- 参加者が自ら手掛けたことの成果を実感できるような進め方を工夫してみましょう。達成感を共有することは、次の活動への強い動機となります。活動のまとめとして、みんなで成果を確認しましょう。

■成果をあげた活動は独り立ちさせよう

- 紙雛は、臼杵の伝統的な雛飾りを復活させたものです。市民に広く受け入れられ、「作り方を教えて欲しい」という要望が講座の実施団体に多く寄せられました。
- このように成功した活動は、自主運営できる団体に任せていきましょう。活動の場として文化財建造物の活用が広がることも期待されます。

■地域の企業をまきこむ仕組みを考えよう

- この事業では、地域の工務店や造園業者を講師に迎えました。地域の専門業者を巻き込むことによって、文化財のサポーターになってもらうことに期待したものです。
- 所有者、専門業者、NPOがそれぞれの役割をもち、協働して文化財を支えていく関係を築いていきたいものです。